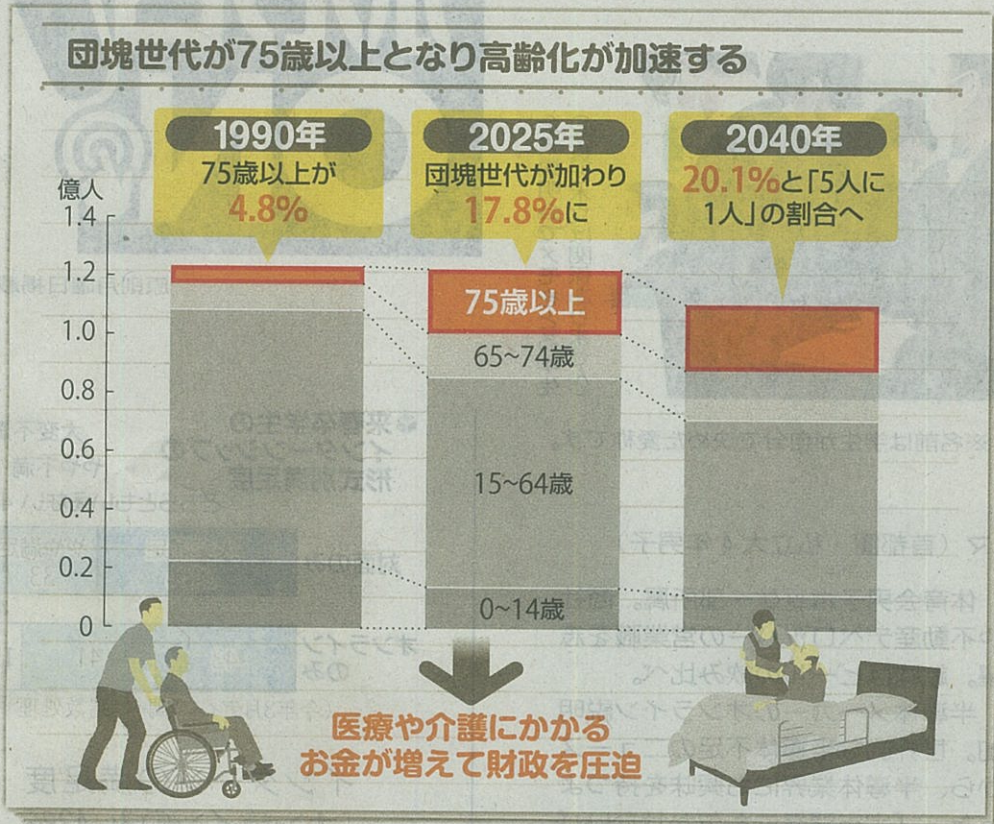


安心の設計

介護、医療、子育て、老後に関するご意見・疑問をお寄せ下さい
メールansin@yomiuri.com ファクス03・3217・9957



2025年問題って？

団塊世代が75歳以上に



ゼミ生 「2025年問題」という言葉を聞きました。3年後に何が起きるのか教えてください。

医療費 国の財政圧迫

教授 「団塊の世代」という言葉は知っていますか。戦後間もない1947~49年生まれの人のことで、この3年間は毎年約270万人が生まれました。昨年1年間の出生数は約84万人だったのと比べると、約3倍の規模で子どもが生まれた計算になります。その人たちが全員75歳以上になるのが2025年です。「高齢者の高齢化」が進む節目の年と言えますね。

ゼミ生 高齢化はどのくらい進んでいるのですか。

教授 日本の人口に占める75歳以上の人の割合は1990年は4.8%だったけど、2025年には17.8%に増える見通しです。高齢人口がピークに達する40年には、5人に1人が75歳以上になりそうです。

ゼミ生 長生きするお年寄りが増えるのはいいことですが、どうして「問題」なのですか。

教授 年を取れば、病気やケガをしやすくなります。日常生活では介護が必要になることもあります。19年度の

1人あたりの国民医療費は、65歳未満が19万円でしたが、これに対して、75歳以上は93万円です。つまり75歳以上の人が増えると、医療や介護の費用が膨らみ、国の財政がさらに厳しくなることが問題視されているわけです。

年金などを含めた25年度の社会保障給付費は約140兆円と、10年前と比べて2割増える見込みです。増え続ける社会保障費は税金だけでは賄えないので、足りない分は借金をして将来世代に負担を先送りしています。

ゼミ生 働いて税金や保険料を納める人は減っているのですよね。

介護人材 32万人不足



教授 国は対策として今年10月から、一定の収入がある75歳以上の人払う医療費の窓口負担を引き上げること決めました。将来世代に負担を先送りしないために、高齢者の一部に負担範囲を広げているわけです。

ゼミ生 僕も年を取ったらお金の面で苦労しそうだな。

教授 お金だけではなく、介護人材の不足も深刻です。厚生労働省の試算では、25年度に介護の担い手は約32万人不足する見込みです。待遇や労働環境の改善などの対策が急がれます。